

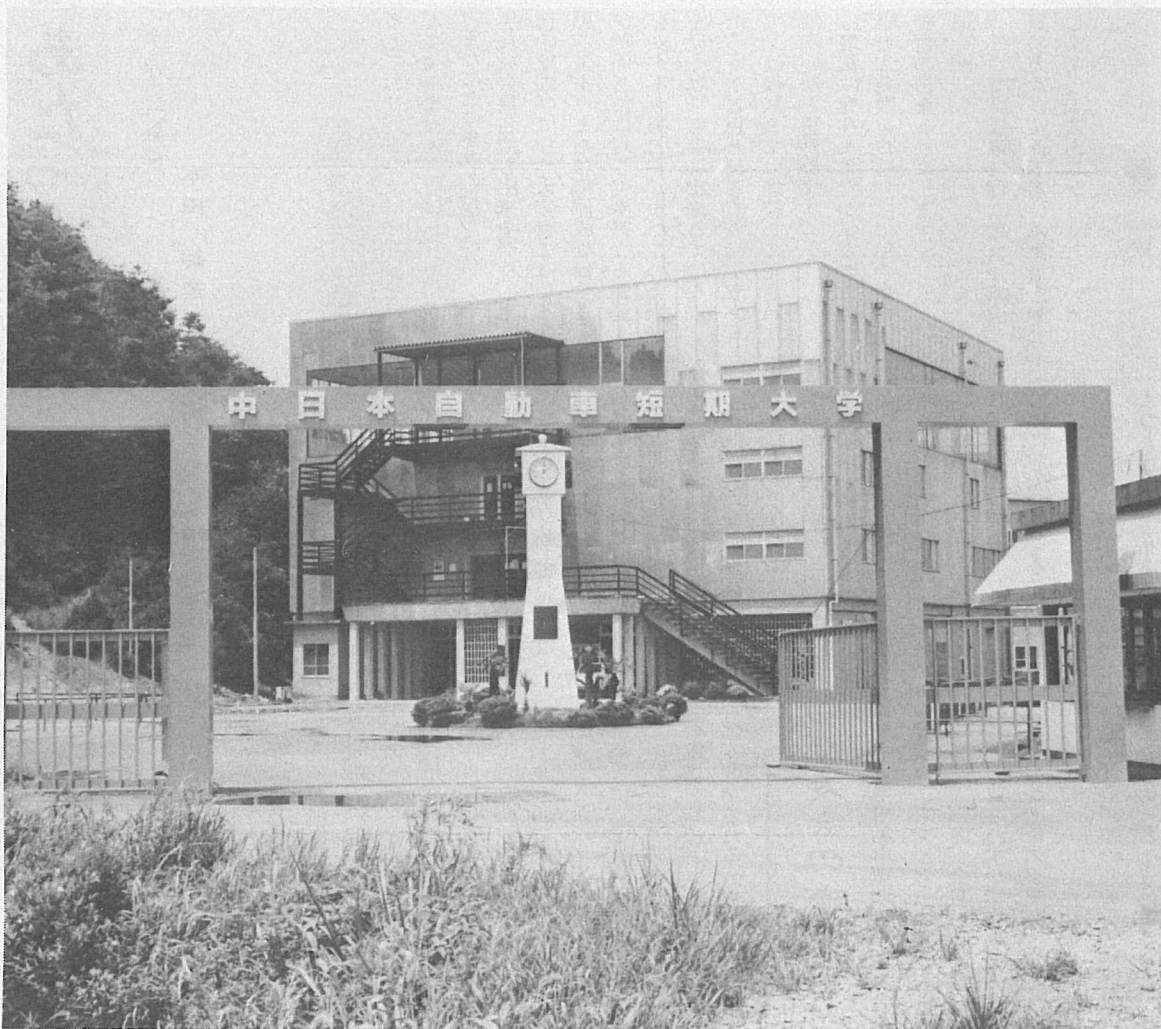
(1) 昭和57年8月12日

学 友 会

# 学 友 会 会 報

## 創刊号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局  
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深董1301 ☎<05742> 6-7121



**第三回学友会総会が真近かです。**

**みなさんの参加を待ってます。**

# 会報創刊にあたって



校友会会長

本田 紳基

母校中日本自動車短期大学も開学以来十五年を過ぎ卒業生総数が七千名近くになりました。校友会活動もやっと軌道に乗りここに校友会会報のはこびとなり喜びに耐えません。母校が質、量とも拡充され、発展を続けて、毎年五百名に及ぶ卒業生を社会におくり出してあります。また卒業生のかたのあらゆる分野において学友が活躍しておられることは、まことに心強く思います。

さてこのたびの会報は今までの同窓会、記念植樹等の記事を盛込み、学友がどのように校友会に関心を持ち、いままで、どんな活動をしたかという記事を掲載しました。今後会報をすくなくとも年一回は発行したい所存であります。また校友会役員及び代議員等の選出も今後、支部単位ごとの選出も

# 生涯教育時代の到来

中日本自動車短期大学

学長 中村 清

創立十五周年の年にあたり、「学友会」から「会報」が創刊されることになったことは、まことに嬉しい限りである。

「学歴偏重の社会的風潮を改め、広く社会全体が生涯教育の考え方に立って、各人の生涯を通じる自己向上の努力を導び、それを正當に評価する学習社会を目指すことが望まれる。」

右は、昨年六月文部大臣に答申した『生涯教育（中央教育審議会答申）』の結論である。

昭和五十五年度の『我が国の教育水準（戦後三〇年の教育の推移）』（文部省）によれば、特に、大学短大への進学率も三十五年の一〇・三％から、五十五年の三七・九％へと三・七倍も上昇し、在学者数も二十五年の二十四万人から、五十五年には二百二十二万人へと約一〇倍に急増した。その結果、米

国につく教育大国となったのである。このような高学歴化社会が戦後

の我が国経済高度成長の基盤となり、経済大国への道を開いたのであるが、その反面、学歴偏重の社会をもたらし、受験競争を激化させて一大社会問題となった。かかる社会的弊害を緩和ないし排除するために、学歴社会を学習社会に転換させることが不可欠である。

人の評価は、その人の人格・教養・能力によって決められるべきであって、卒業した学校の名声で格付けすることがあってはならない。問題は、いかにして有名校に入学し卒業するのではなく、いかに生涯を通じ人格・教養・能力を涵養するかにあるのである。そのため、学校教育の偏重から、〈生涯教育〉の普及に教育・学習の重点を転換させることが、今後強く要請されるのである。

## 校友会のあらまし

中日本自動車短期大学校友会の発足は一九七三年と古くからありました。当時、会員は約三〇〇〇名で会費もわずかで充分な活動ができなかったのが実情です。

そこで、一九七九年十月に岐阜で校友会の組織を充実して活動を活発にできるように再発足し、現

在に至っています。

私たち、校友会は二つの大きな目的を持っています。

第一は、母校の発展に寄与すること。  
第二は、会員相互の親睦をはかること。

現在、母校の卒業生は創立十五年を迎え七〇〇〇余名に達し、広く社会で活躍しています。又、その後にも続く多くの卒業生や入学生もいます。

一方、社会に於いて整備部門で活躍をしている全体数は約十二万人、そのうち二級有資格者は三分の一といわれています。

こうした中で、中日本自動車短期大学が社会に果たす役割と責任を自覚し成長しなければ、真の発展を期待することはできません。又社会はこのことを期待しています。

そこで、この期待に応える為に校友会は、具体的活動を通じ、大学の発展に寄与することを考えています。

更に、会員相互の親睦については、毎年、大学祭期間中に同窓会を開き、旧交を暖めてもらい、交流も深まり、年々、盛大になってきています。



### 第一回 記念植樹

第一回学友会総会が、岐阜市内のホテルで催され、その記念に二本の枝垂梅を母校へ贈りました。五六年三月十四日記念植樹は、学友会メンバーの見守る中、飯田前学長と本多学友会々長の鍬入式によって行なわれました。

枝垂梅は、二月から三月にかけて華やかな花が咲き、真新しい新一号館と見事なコントラストを見せてくれます。また、これから学友会の正会員となられる学生諸君の目を見晴り、卒業のせまったひとときに、枝垂梅をバックに記念撮影という光景も見られることと思えます。

### 第一回学友会

### 総会開かれる!!

昭和五十五年十月十九日、午前十一時、記念すべき第一回学友会総会が岐阜ワシントンホテルで開催された。当時、卒業生名簿が未整備であった為、当面、東海四県下の卒業生に絞らざるを得なかったが、雨天にもかかわらず、総勢五十名の参加人員となり、盛大な幕あけとなった。

総会の議案は次の通りで、各項目とも慎重審議の結果、すべて可決承認された。

- 一、学友会会則案について。
- 二、代議員の選出について。
- 三、昭和五十五年度、事業計画案について。

### 四、会計報告

以上。  
総会終了後、引き続き、同会場で立食パーティが催され、固苦しい総会の雰囲気から一転してなごやかなムードで始まった。久方ぶりの対面で、握手を求め、肩をぶつけ合う連中の楽しそうな顔・顔。そしてあたかも何十年来の親友であるかのように親しく語り、酌みかわす先輩と後輩の酒盛り姿は我々を「時」から忘却させ、学生時代を再現させてくれるタイムカ

プセルの中にあるような錯覚さえ感じさせる有意義なひとときであった。  
懇親会もフィナーレを迎え、大きな輪になり校歌を歌いながら、我々参加者全員、共通した一つの事を心の中で、互いに確認し合ったような気がする。  
それは、「たった今、船出したばかりの、七千数百名の学友会丸」を決して沈没・座礁させることなく、常に安定した航海をさせなければならぬ」と……。

### 十五周年にあたり 卒業生の皆さんへ

神野学園理事  
平野峻暹

本学は、昭和四十二年四月開学以来、はや十五年の歳月が流れ、日本を代表する自動車整備短期大学に成長することができました。これは、ひとえに卒業生・ご父兄の皆様、また、関係各位の皆様のご支援・ご指導の賜ものと厚く御礼申し上げます。

この十五周年に、本学からは坂祝町の人口(約六・三〇〇名)を越える七・〇〇〇名余の学生が、優秀な技術者として巣立ってゆきました。低成長時代に入った現在も尚、高度成長を続ける日本の自動車産業界は、この優秀な技術者によって支えられてきた、と言っても過言ではないでしょう。そして、このような卒業生の皆様のご活躍こそが本学にとりましてのステータスであり、私の誇りに思うところでもあります。

今後とも母校の名誉のため、現職場に全力を傾注され、本学より巣立ってゆく後輩達のご指導・育成をお願いするとともに、優秀な



学 友 会

ご子弟の推薦を願えれば幸いに存じます。また、青春の貴重な一時期、北に霊峰御嶽を望み、足許には流麗な日本ラインの流れる坂祝町で過ごされたことを思い起こされた際には、ぜひ、本学へお立ち寄り下さい。

さて、日本の自動車産業界ではユーザー層の多様化、価値観の変化に伴い、新商品の開発が次々と行われ、増々メカニックが複雑化し、21世紀に向い目覚ましい進歩を遂げ、優秀な技術者を必要としています。この時代のニーズに即応した技術者を養成すべく、本学では車体整備・電装整備・電子機械等の新カリキュラムを具体的に計画しております。

卒業生のみなさん、ぜひとも明日の時代を我らの手で築き、日本の自動車産業界の太陽を、この坂祝町から昇らせようではありませんか。

56年度学友会役員

会長 本田 紳基

副会長 市川 邦彦

監事 松浦 信邦  
伊藤 俊行  
岡田 治  
大脇 澄男  
白鳥 元章  
若井 義成  
柴田 義廣

代議員 大原 明秀  
中野 秀人  
大和 加典  
中島 保晴  
細野 満  
大矢 亘  
花村 直昭  
森滝 直昭  
松井 孝弘

柴相 服林 竹木 奥水 森金 中  
庭部 内村 野谷 千賀 清恒 英  
勝誠 大寧 雅人 司夫 夫  
柴田 勝 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫  
坂野 側 通 邦 雄 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫  
西側 通 邦 雄 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫  
脇戸 俊 隆 雄 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫  
井戸 一 倉 豊 隆 雄 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫  
桜山 隆 倉 豊 隆 雄 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫  
横井 隆 倉 豊 隆 雄 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫  
鹿子嶋 正 隆 倉 豊 隆 雄 夫 洋 夫 勇 睦 策 夫 人 夫

56年度事業計画

事業担当 大脇澄男

今年度事業計画について、既に実施済みのものも含めて順次説明致します。

一、総会及び同窓会の開催

第一回総回についで、第二回総会を去る十月二十五日、多数の出席者を迎えて盛大に催すことができました。

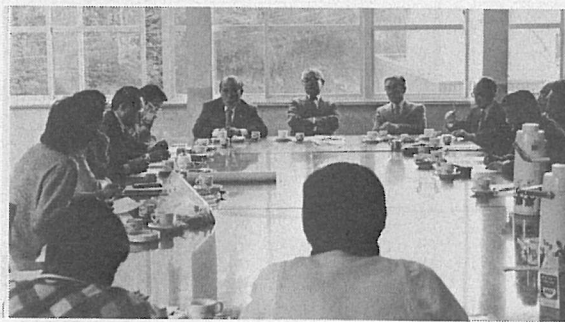
二、母校の十五周年記念事業

この件については、まず大学側主催行事に対して全面協力すると共に、学友会としましては大学内の適当な場所に四十万ほどの予算で、記念植樹をする計画を致しております。なおこれを記念して、スポーツ奨学金制度を予算十百万円で発足させ、在学生中の優秀選手の発掘並びに助成を行なうことになっていきます。

三、会員名簿の整備

この件は学友会の宿願であったわけですが、関係各位の努力により、大変立派な名簿が完成いたしました。既に予約の受けつけを済ませていますが、希望者は学友会(大学)までご一報下さい。

(頒布価格二・五〇〇円)





四、会報の発行  
 会員相互、会員と母校を繋ぐ、パイプ役として、年一回会報を発行していくことになりました。

五、支部設立の推進と援助

学友会もO・B七千名を数えるに致りましたが未だ支部の設立が不十分ですので、O・B諸兄のご尽力をお願い致します。支部設立にあたりましては、資金その他協力致しますのでご一報下さい。

その他の事業計画として、次のものがあります。

- 六、学友会館設立準備金の積立 一〇〇万円
- 七、五十六年度卒業生への記念品贈呈 五万円



- 八、大学祭補助 五万円
- 九、停年退職者への記念品贈呈
- 十、大学側への「提言と要望」の採択

入試情報

昭和五十八年度学生募集要項が発表されました。入試日程・試験科目等は次のごとくです。

近年の入試状況は、以前に比べ応募者がやや減少し、競争率は決して高くありません。(昨年は一倍)

母校では卒業生が入学希望者を紹介してくれるのを待っています。規模も大きくなり、施設も整った母校では、教職員一丸となって教育に邁進しており、その中には二十名を越す卒業生もいます。安心して後輩を送ることができるようになっています。

昭和五十八年度

入試要項

募集定員 六〇〇名(男女共学)

試験入学受付期間

一次募集 10月11日～12月15日

二次募集 1月16日～3月5日

試験日 12月22日

試験日 3月11日

試験科目 英語A・数学I・小論文

推薦入学受付期間

一次募集 10月11日～12月15日

二次募集 1月16日～2月18日

場合により面接・小論文を課す。

調査書選抜入学受付期間

一次募集 10月11日～12月15日

二次募集 1月16日～3月15日

全員に面接・小論文を課す。

試験場

一次募集 本学・大阪・広島・静岡・金沢

二次募集 本学のみ

検定料 一万五千元

特招生制度 授業料免除

クラブ活動状況

学生課長補佐 渡辺吾郎

学生生活の中心は、正課教育にあることは言うまでもないと思うが、大学における人間形成は正課教育で学び得ないものがあり、それを補う一つとして課外活動ではないかと思えます。

課外活動とは、学生が自主性をもって自治的に広く活動の場を求め、友を得、友と交わり、先輩・顧問教官とも交流を求めあう集団活動であるかと思えます。

その集団活動をする時、必ずリーダーの役割が重要視され、毎年リーダーが教育を受け、誇りあるクラブの伝統を引き継がれるべきであると思えます。

では本学のクラブ活動の状況をみて素直に申しますと、健全で活性のあるクラブでないことが言えると思えます。

本学開設当初クラブ活動はもつと盛んであった様に記憶をしているが、年々学生達の趣味趣向が多様化するによりクラブへの入部が減少の傾向であり、又、本学のクラブ運営に大変な問題を持っていてその問題を完全に解決をしない

限り、多くの学生達に好かれることがなく、健全なる活動はありえない。現在クラブ・同好会は十三サークルがあつて、それぞれ先輩から受け継ぎ活動をしているものの、一部に体質改善をしなければならぬクラブもあり、顧問教官の適切な指導と学生達自らの健全かつ信頼されるクラブに改善を望むものであり、昭和五十七年を元年として教職員・学生自治会との連帯意識を深めていきたい。

今日の十三サークルを見た時に我々の期待するもの及び一般学生が望む活動内容に努力していることが顕著に現われているので、大変喜ばしいことと思つています。

更に努力を重ね多くの学生達が自主的に参加でき、課外活動が榮することを誰れもが願うものであると同時に、七割程の学生が大学週辺に下宿生活をしている状況を考えた時、健全で自主性と自治的に運営することができれば、必ず多くの学生に好かれ盛んになることと思えます。

O・B各位とも今後幾親しく後輩達の為に、ご支援ご協力を願ひ教職員一丸となってサークル活動に対する支援体制を築き、更に大学の発展に努力致したく思っています。

# 学生時代の想い出

九期生 森 清司

今思うとよく二年間も通ったものだと思つています。朝七時前に家を出て、七時二十分ごろ岐阜駅に着き、七時三十七分の高山線で坂祝へ、坂祝から歩いて学校まで通ったものだ。そして、学校に着くのが八時半ごろでまだ校内は静かで一人で何もする事がなく、ただ時間をつぶしたものだ。

そして帰りはまた坂祝の駅まで歩いて行ったり友人に乗せてもらったりしていた。時に、高山線は雨がたくさん降ったり、その他いろいろな事でよく遅れた事を思い出した。たしか一年の夏休み前のころだと思うが昼までの授業の日、ひどい雷雨で電車が不通になり一時ごろから六時ちかくまで坂祝の駅のホームにいた事を……。

学校の勉強の方はなんとか人についていってたくらいでめだつてよくもなく悪くもなかったと思つています。

そう、高校から大学に入ったすぐは、四年制の大学生と同じように遊んで楽にやっけて行けると思っていたがなにがなにが……。

実習は厳しいし、遅刻をすれば単位はもらえないし、二年の秋ごろからは土曜日も講義・講義でなかなか遊んでもいられなくなつた。しかし、時をみては遠くの方へ旅行も行ってきたり、いろんな事も出来とても楽しい学生生活であつた。そして、もう一つ苦しい思い出は、遊びすぎて月始めにお金を使いすぎた時などは、昼飯を、カップラーメンで我慢し節約したりもした。今となつてはなにかもかも楽しい思い出ばかりである。

学生時代はいやな先生だつたなと思つていた先生が、卒業してから話してみれば人間味のあるいい人なんだと、たしかに学生の時はやさしく、何も言わずの先生がいてと思つたが、今では学生の時に厳しかった事、(今だに実習に遅れて、卒業できない夢を見る)先生などが想いに出てくる。僕の学生時代は楽しさ(60)、苦しさ(40)、よき友も出来、よき学習も出来、そして何よりもよき社会勉強が出来た。

## 雑感

講師 脇 俊隆

私が大学に就職して既に十三年

という年月が経ち、多くのことが思い浮びます。その中で、忘れ去ることのない大きな出来事が、二つあります。一つは、大学の教育環境に不満を持った学生自治会の事件、今一つは、大学の評価を落した七・七暴走事件です。

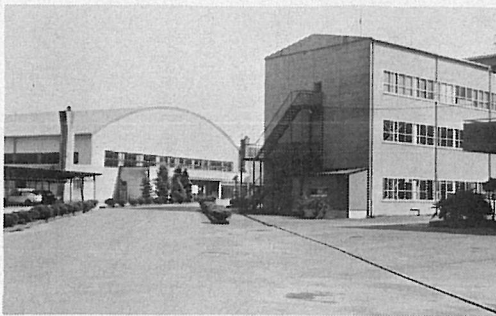
この二つの事件は本学の時代の差による学生気質と不満を象徴的に表わしているように思えます。

更に、このことを通し感じることは、教育環境と生活環境が以前に較べて改善されたものの、まだまだ立ち遅れているということ。勿論、このことは現在の大学教育機関として遅れていることを意味します。このことについて大学でも本腰を入れて行なう姿勢が芽生えてきているようなので多いに期待されると思います。

最後に、私は本学の卒業生であることと同時に本学の教員でもあります。そうした立場の中で、大学の発展を願うことに切実なものを持つています。

又、この大学の発展に寄与することと、校友会がより大きく育ち発展することを期待し、頑張りたいたいと考えています。

## 大学の風景



### 二級整備士合格率 上がる(九〇%)

認定試験問題の傾向は、例年大体同じで、新規なものは数少ない。だから過去の問題を一応理解できれば、本学の学生ならば、全員合格しなくてはならない。

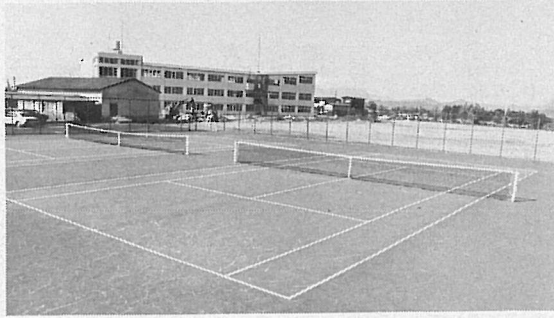
しかし、実績が上らなかつたのはなぜか、と考えるに、一部学生に切迫感が少なかつたと思う。

一昨年より行つた、直前の特別教育で、先生方の熱心さが学生に伝わり、わがことながら、やらなくてはという気運が生まれたのが、よい結果を生んだのだろう。

学生諸君を、全学的受験ムードに引き入れることが大切である。

# グラウンド完成!!

助教 大塚 三雄



開学十四年にしてグラウンド・テニスコート(全天候)及び卓球場が完成しました。当時を思えば、先輩諸君には体育館以外に施設はなく、体育館での授業が主であったのですが、その後理事会、教授会の体育授業の不憚りに理解があり、りっぱな施設が完成しました。完成に当っては岐阜卓短大協会体育大会の会場校となって、体育大会をりっぱに成功することができました。

体育授業では後輩諸君も大空の下で、テニス・ソフトボール・サッカーや体力作りに汗を流して頑張っています。これも偏に先輩諸君の心暖かいご支援とご協力の賜物と思ひ感謝しております。

業業業業業業業業業業

## 岡山県人会発足

### にあたって

二年生 春名 伸吾

この度、岡山県出身者による県人会を作ることになりました。発足案についてはまず、一・二年の交流をはかり、また帰省時における各人の連絡等、より幅広く行うためということを前提としました。

なお岡山県出身者は、現在約五十名にのぼり、活動内容としてはコンパ・スポーツ・その他のリクレーションなど活発に行うことを予定しています。

学業におきましては、良きライバルであり、良き相談相手になりたいと思います。

先生方、みな様方等には、色々御迷惑をお掛けすると思いますがよろしく願います。

# 楽我記

## ガンバツテマス!! 女子学生・留学生

かなり以前の男子の卒業生諸君には大変うらやましい話かと思いますが、最近では毎年女子学生が入学しているのです。現在は十三名が在学しています。しかもすでに二十一名が卒業し、第一線で活躍しています。

その他、外国からの留学生も毎年といつてよい程入学し現在までに二十八名が卒業しました。在学



生にはタイとインドネシアの学生が三名います。日本人学生には母国のことを話したり、口の中がやけどをしそうなカレーライスをおごったりし、言葉のハンデイを乗り越えて頑張っています。

留学生の中には、二級整備士のライセンスを取得して帰国した卒業生もいるのです。もちろん母国ではライセンスは関係ないのですが、日本で勉強した記念と、そのことを忘れないために資格をとったとのこと、頭が下る思いです。そんなわけで、以前にも増して母校ではさまざまな学生が勉強しています。

# 就職情報

学生課就職係長 井戸 豊

今や、世界の自動車産業は、未曾有の厳しい時代を迎えている。それは、日米欧の自動車メーカーが小型車という共通の土俵で激突する時代になったからだ。

当然、国内においても各メーカーとも、熾烈な戦いが展開されている。その戦いの中心は、低燃費、低公害、高性能化などの技術競争であり、その成果は、販売ディーラーの経営の浮沈に直結していると言っても過言ではない。

高度成長時代から低成長下への市場の変化に伴い、企業もさまざまな体質転換を余儀なくされているが、中でも「人材開発」に対して、各社とも全社あげて取り組んでいる事は当然の帰結と言えよう。そんな情勢下の中で、業界の本学に対する期待は、極めて大きい。

現在、本学の就職指導の基調は、「できる限り広範囲に、又可能な限り高度な技術分野への企業開拓を目指す」としており、その成果は、微量ながら着実に伸びている。ちなみに、昨年度(五十六年三月卒)の実績を紹介すると、自

# おぼえていますか 大 学 校 歌

一、北アルプスの裾の辺に

たゆとう木曾の水清し

あ、豊かなれ我が母校

集いて寄れる若人の

青春の夢ここにあり

二、ここ美濃路なる坂祝の

郷部のみどりにいや映えん

あ、逞しくあれ我が母校

眉雄々しくも研讃の

青雲の志ここにあり

三、濃尾の平野はるかなれ

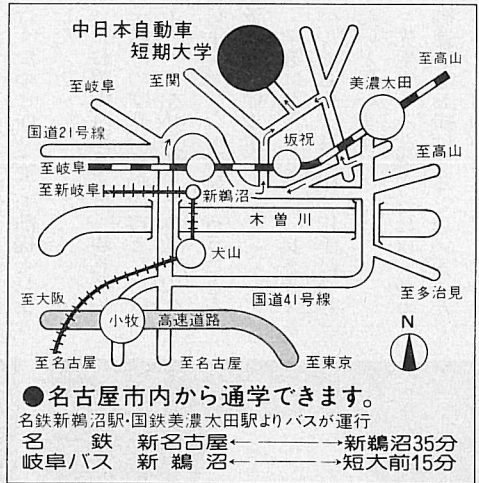
無窮をわたる風速やし

あ、大いなれ我が母校

その名

中日本自動車短期大学の

伝統の旗ここにあり



岐阜バス時刻表 (一部) 昭和57年 4月 1日現在

美濃太田発	中日本短大口	新鵜沼駅着	新鵜沼駅発	中日本短大口	美濃太田着
9:04	9:14	9:32	12:45	13:01	13:11
11:24	11:34	11:50	14:35	14:51	15:01
12:24	12:34	12:50	18:15	18:31	18:41
13:24	13:34	13:50	19:15	19:31	19:41

## 会員名簿のお知らせ

中日本自動車短期大学が一九六七年に開学して以来、十五年の歳月が流れています。その間、七〇〇〇余名の多くの卒業生を社会に送り、この分野での社会的な地位を築きつつあります。

こうした環境の中で、存学中は言うに及ばず、卒業後の学友同志の交流も中広く行なわれることと思えます。

私たち、学友会名簿編集委員会は、更に学友の交流の輪を上げら

れるように、第一期卒業生から第十五期にいたる全卒業生を網羅した総合窓会名簿を作成し、二五〇〇円で学友会会員に販売しています。御希望の方は左の学友会事務局まで申し込みして下さい。

〈申し込み先〉  
二五〇五

岐阜県加茂郡坂祝町深萱三二  
中日本自動車短期大学学友会

事務局

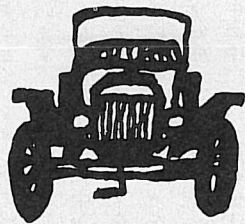
☎〇五七四二六一七二二一

## 大学の行事予定

### 今後の行事予定

- 9月13日 ~ 9月25日 前期定期試験
- 10月23日 ~ 10月25日 大学祭
- 10月24日 学友会総会・同窓会
- 12月19日 ~ 1月9日 冬休み
- 2月4日 ~ 2月15日 後定期試験
- 3月15日 第十五回卒業式
- 3月27日 二級整備士認定試験

来る十月二十四日は、第三回学友会総会及び同窓会の予定です。当日は大学祭でもあり、合わせて参加することもできます。卒業生各位の多数の参加をお待ちしています。



◆自動車販売デイラーは、言うに及ばず、主要自動車メーカー8社に対し、総勢十七名の実験・研究スタッフを送り込み、又、公務員・各種団体・教職関係にもそれぞれ複数の学生を送り出している。今後ますます多様化する学生の職業志向に対し、彼ら一人一人のポテンシャルを最大限に引き出し得る企業の開拓が、我々の大きな使命であり、そのスケールの大きさが大学の尺度となり、しかも大学発展の確かな足跡にもなるため、その責任は極めて大きいと痛感している。

## 編集室だより

第一号会報をこの度発刊することができました。

発行にあたり、大学教職員および会員の皆様にいろいろと原稿をいただきありがとうございました。第一号ということで、会員のみな様には、満足のいただけない点多々あると存じますがお許し願います。

今後学友会に対する御意見、御希望がございましたら学友会事務局まで御連絡下されば幸いです。

編集部